

養成所ニュース

第28期生230名が受講スタート!

「第28期・新受講生を迎えて」

公益財団法人 日本知的障害者福祉協会 社会福祉士養成所

第28期生の皆様、社会福祉士養成所へのご入学、おめでとうございます。

また、28回社会福祉士国家試験を受験し、難関を突破されて合格された修了生の皆様に心よりお祝いを申し上げます。本養成所で培ったソーシャルワークの価値や倫理、専門的知識と技術を活用し、社会から信用される社会福祉士として、福祉の現場でご活躍されることを期待いたします。

現在、障害者総合支援法三年後の見直しに関する改正法案が国会に上程されています。誰もが地域生活を営むことができるよう、「生活」と「就労」に対する支援をさらに充実させること、多様化するニーズに応えるきめ細かなサービスを提供し、その質を向上させること、そして障害のある方の意思決定支援に向けた支援の充実等が求められており、当協会としてもより良い改正となるよう、全力で取り組んでいるところです。

また当協会では、このような理念を実現する社会を作っていくことの助となることを願って、文部科学省、厚生労働省の後援を受け、「全国小・中学生障がい福祉ふれあい作文コンクール」を実施しています。子どもたちの瑞々しい作品から初心にかえるような感慨を味わうことも多く、たくさんの方に知っていただきたい活動のひとつです。

社会福祉を發展させていくためには、柔軟な発想で様々な面からのアプローチが必要とされています。受講生の皆さんが目指す社会福祉士には、ソーシャルワークの担い手として心豊かな社会を築いていく重要な役割が期待されています。

仕事や家庭に多忙ななかで受講される方が多いと思いますが、社会福祉士国家資格の取得を目指して知識と技術の習得に励むとともに、同じ目標を持った仲間と互いに励ましあい、合格を勝ち取ってください。本校での学びが有意義で実り多きものとなることを祈念いたします。



所長 橋 文也

専任教員より



社会福祉士養成所 専任教員 中野 恵美子

2016年2月、スクーリング会場付近は東京マラソンを応援する人たちが行き交っていました。陽光を浴びて老若男女が快走する姿は、いかにも清々しく感動的でしたが、車椅子マラソンが別のコースで行われていたことは、残念に思いました。

1964年東京オリンピックのマラソン覇者は前回のローマ大会と同じ、エチオピアのアベベ選手でした。彼はその後、交通事故にあって車椅子使用者となり、1972年のパラリンピックに洋弓の選手として出場しました。1964年の東京では、すでにパラリンピックも開催されていましたが、こうしたことはあまり知られていないように思います。

車椅子を目にすることも稀だった当時の日本の様子を、水上勉が『くるま椅子の歌』（1967年）という作品の中に書き留めています。物語は身体障害のある娘をもつ若い夫婦が、東京パラリンピックの会場で、堂々と競技に挑む海外の車椅子アスリートの姿を、希望をもって見つめる場面で終わります。それは親としての作家自身の姿でもあったのですが、パラリンピックは今ほどには報道もされず、70年代になっても「パラリンピック選手アベベ」が目されることはありませんでした。

若い人には信じられないことかもしれませんが、東京オリンピックの頃には「女子にマラソンは無理」と言われていました。神戸のある女子高校で体育教師がサッカー部を

作ろうとしたところ、PTAが「娘にサッカーをやらせるとは何事だ」と猛反対したこともありました。今、神戸は女子プロサッカーのメッカとなっている事を思うと、時代は大きく変わったものだと思います。

知的障害の分野では1968年から、国際大会としてスペシャルオリンピックスが開かれています。アメリカのケネディ大統領の妹に知的障害があり、彼女のためにケネディ家の庭で開かれたスポーツ大会がその始まりと言われていたもので、現在もその活動は続けられています。

スポーツは私達の人生を豊かにしてくれるものであり、福祉とスポーツには深い関係があります。当養成所にも、スポーツインストラクターや介護予防運動指導員など、障がい者スポーツや介護予防の分野で活躍している先輩たちがたくさんいます。ある元プロスポーツ選手は、ケガをした時に理学療法士や作業療法士の仕事を知り、「第二の人生」として社会福祉士を目指したということです。

2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて、福祉もスポーツもさらに發展させていきたいものです。みなさんの活躍を、様々な分野が待っています。養成所での勉学も、未来を見つめ、広い視野を持って楽しみながら取り組んでいただきたいと思います。

●通信教育 Q&A 受講生の方からよくある問い合わせについてお答えします。

Q1 引越して住所が変わったのですが?

A ●住所・氏名・勤務先に変更が生じた場合には、すみやかに住所・氏名・勤務先変更届により届出てください。
●上記変更は本養成所ホームページの登録変更フォームより変更することも可能です。
●住所を変更した場合は、上記届出とあわせて、郵便局にて転送手続きを行ってください。

Q2 修了証明書を請求したいのですが?

A ●国家試験の受験等、本養成所修了後に修了証明書が必要な場合は、次の2点を用意し、本養成所庶務部にて請求してください。
①修了証明書交付願(受講の手引・ホームページに様式添付)
②角2返信用封筒(返信先を明記し、120円切手を貼付したもの)
●交付に際して、手数料は必要ありません。そのため、返信用封筒がない場合や交付願による請求でない場合は、発行できませんので、ご注意ください。

Q3 PC等を使用する場合、原稿用紙はどうすればよいですか?

A ●本養成所指定の原稿用紙(様式:A4版・横書き・30字×40行)を使用します。
●本養成所ホームページ(<http://www.aigo.or.jp/yoseijo/>)から【入力フォームやテンプレート】をダウンロードできます。欄外に科目名、課題番号、学籍番号、氏名を記入して下さい。
●評価(採点)する側にとって、読みやすいことが大切です。

Q4 レポートを送付する時の注意点は?

A ●本養成所指定のレポート提出用封筒を使用し、レポート提出期間内に送付してください。
●1通の封筒に上限1kgまで、封入することが可能ですので、各学期提出分のレポート全てをまとめて提出してください。
●郵送中に配達事故が起こる可能性もありますので、レポートをコピーし控えをとる事や簡易書留等の交付記録郵便を利用した送付をお勧めします。

●●平成28年度スクーリング日程●●

	27期生スクーリングⅢ	28期生スクーリング①
東京会場	平成28年7月23~24日	平成28年8月19~21日
仙台会場	平成28年8月27~28日	平成28年8月26~28日
名古屋会場	平成28年7月17~18日	平成28年7月16~18日
大阪会場	平成28年7月30~31日	平成28年7月29~31日
福岡会場	平成28年8月6~7日	平成28年8月5~7日

国家試験に向けてのおすすめ図書

- 国民の福祉の動向(厚生統計協会)
- 厚生労働白書(厚生労働省)
- 週刊福祉新聞(福祉新聞社)
- 必携社会福祉士(簡井書房)
- 社会福祉士・受験ワークブック(中央法規)
- ワイド版社会福祉小六法(資料付)(ミネルヴァ書房)

知的障害者の福祉の向上を目指す月刊誌 **suppOrt** 平成28年度 購読のご案内

知的障害福祉研究 ●毎月15日発行
●A4判 68ページ
●1部 596円(税・送料)
●年間購読料6,480円(税・送料)
★当協会加入施設職員の方は5,000円で年間購読できます(1部470円)。

お申し込みは 協会「さぼーと」係まで ☎ 03-3438-0467 FAX 03-3431-1803
<http://www.aigo.or.jp/>

※養成所に対するご要望・ご意見等ございましたら、ご連絡ください。 yoseijo@aigo.or.jp

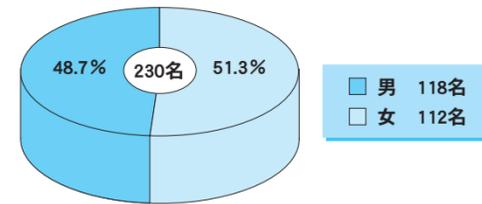
■第28期生の概要 (平成28年4月現在)

第28期生社会福祉士養成所の受講生は、230名です。概要については下記の通りとなります。

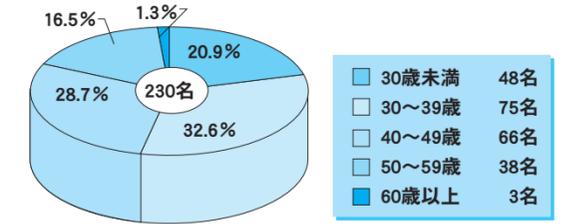
●運営状況 (過去3年間)

年度(期生)	応募者数	入学者数	修了者数
平成26年度(26期生)	213名	204名	199名
平成27年度(27期生)	249名	240名	
平成28年度(28期生)	238名	230名	

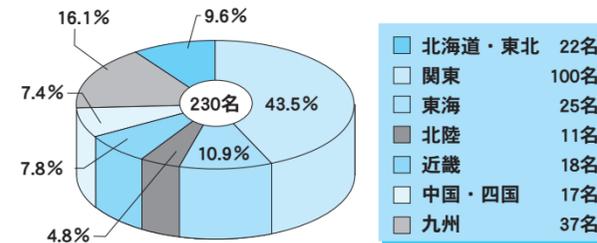
受講生男女比



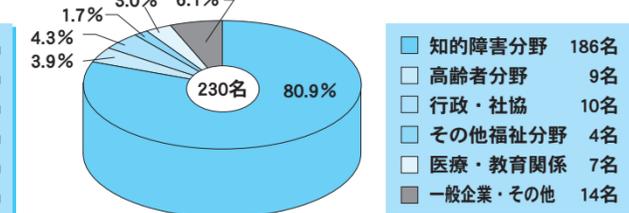
年齢別分布



地区別分布



勤務先種別



第28回国家試験結果報告

第28回社会福祉士国家試験において本養成所より153名（うち27年度修了者64名）が合格しました。昨年度（第27回試験）は199名（うち26年度修了者100名）でした。

これまでの国家試験の結果

試験回数	受験者数(名)	合格者数(名)	合格率(%)
第1回試験	52,812	14,076	26.7
第10回試験			
第11回試験	333,509	96,847	29.0
第20回試験			
第21回試験	46,099	13,436	29.1
第22回試験	43,631	11,989	27.5
第23回試験	43,568	12,255	28.1
第24回試験	42,882	11,282	26.3
第25回試験	42,841	8,058	18.8
第26回試験	45,578	12,540	27.5
第27回試験	45,187	12,181	27.0
第28回試験	44,764	11,735	26.2
合計	740,871	204,399	27.6

国家試験の結果（養成所修了者）

試験回数	総数 合格者数(名)	新卒			既卒		
		受験者数(名)	合格者数(名)	合格率(%)	受験者数(名)	合格者数(名)	合格率(%)
第17回試験	241						
第18回試験	235						
第19回試験	196						
第20回試験	253	262	146	55.7	408	107	26.2
第21回試験	212	244	124	50.8	434	88	20.3
第22回試験	224	262	133	50.8	423	91	21.5
第23回試験	202	206	101	49.0	426	101	23.7
第24回試験	151	179	73	40.8	440	78	17.7
第25回試験	99	223	57	25.6	427	42	9.8
第26回試験	196	204	89	43.6	561	107	19.1
第27回試験	199	220	100	45.5	535	99	18.5
第28回試験	153	173	64	37.0	550	89	16.2

◆社会福祉士合格体験記（私の学習法）◆

東野 桂林さん（第26期生）

私は、介護の仕事に就いて3年経過した平成26年に、介護福祉士の資格を取得しました。取得後すぐに続けて社会福祉士の資格を取得しようと思い、こちらの養成所に入校しました。介護福祉士の勉強で、人体の機能や保健医療、高齢者の特性や介護保険制度等がある程度勉強したので、その分、有利なポジションからスタートできるからです。

最初の1年（平成26年4月から平成27年6月ごろまで）は、中央法規の教科書「新・社会福祉士養成講座」をひたすら読んで、制度や意義を理解することを中心に勉強しました。理解力をつけるために、レポートの課題が2択の場合は、両方とも作文して、良く出来た方を提出するようにしました。

平成27年7月からは「社会福祉士の合格教科書」という参考書を購入し、何度も繰り返し読み、ちょっとでも疑問に思ったことや、興味のあることはGoogleで調べる、という勉強方法に切り替えました。

また、中央法規の「過去問一問一答」（2冊）を何度も（誤答および自信のない問題を）繰り返し行いました。過去問（原本）は制度が変わると誤ったことを覚える危険性があるので見ていません。

私の場合は、10月にケアマネも受験するつもりだったので、保

健医療と高齢者の2科目を9月頃より集中して勉強することで限られた時間を有効に使い、無事ケアマネ試験にも合格しました。

ケアマネ試験が終わった10月中旬からは、中央法規の「模擬問題集」と、成美堂出版の「完全予想模試」の2冊の問題集を上記同様に繰り返し行いました。問題集をやるときは、例えば7問の科目は10分、10問の科目は15分、というように制限時間を決めてやるようにします。

12月中旬からの最後の1か月は、上記模擬問題に加えて、暗記力をつける勉強法に注力しました。各ジャンルで、いつ・誰が・何を、というキーワードをExcelの表に印刷して縦に疊んで持ち歩き、電車の中や、夜勤の仕事に繰り返し見て覚えるのです。加えて、中央法規の「国試ナビ」を眺め、主にグラフの比率や順番を直観的に右脳で覚える、という勉強法を取り入れました。

実際に本年試験を受けた実感としては、数年前のような暗記力だけを問う問題はほとんどなく、制度の意味や重要なポイントを聞かれる原則的な問題（常識問題）が多かった実感があります。その意味では、制度や意義を理解する勉強法と、国試ナビの絵を覚える勉強法が最も得点に繋がったと思います。

折角ここまで来たので、続けて来年精神保健福祉士国家試験も受験するつもりです。

■第29回社会福祉士国家試験の概要（予定）

1. 試験日 : 平成29年1月下旬
2. 受験手数料 : 7,540円（昨年度額）
3. 受付（提出期間）: 28年9月上旬から10月上旬

※詳細は、社会福祉振興・試験センターのホームページ（<http://www.sssc.or.jp/>）をご参照ください。

科目担当者コラム

社会保障担当 矢野 聡

私は学問としての社会保障を1970年代の初めから学んだ数少ない世代の一人である。大学院時代を過ぎて、私は当時の健康保険組合連合会にあった社会保障研究室に入った。同僚は当時特殊法人であった「社会保障研究所（現国立社会保障・人口問題研究所）」のポストへ行った者もいる。専攻は社会学であったが、当時の社会保障研究は圧倒的に経済学であった。戦後、内閣総理大臣の諮問機関であった総理府社会保障制度審議会のメンバーの学者が経済学部出身者であったことによる。しかし今は社会学から社会保障を論じる学者も多く、社会保障の切り口も多様になっている。

長く大学で社会保障論を担当しているが、若い頃は学生に各制度の仕組みを詳細にわかりやすく講義するのが使命だと思っていた。人々が年金や健康保険、雇用・労災の仕組みなどをまだ十分に理解できていなかったのがその理由である。しかし今や社会保障は人々の生活に密着した仕組みとしてよく知られるようになってきた。社会保障の認識が深まるにつれて、枠組みやその在り方にも注意が払われるようになった。単に制度を解説するだけであれば、現在人気のある社会保険労務士の説明で十分であろう。現に新聞の社会保障欄には、彼らが制度説明に当たっている。そこへ私が無理に入り込むつもりもない。

別の切り口からいえば、社会保障とは現金、サービスにかかわらず、必要な人へ給付する、すなわち与える仕組みである。社会保障の給付は医療であれ年金であれ、あらゆる社会階層に関わらずすべての人々を対象とするが、特に

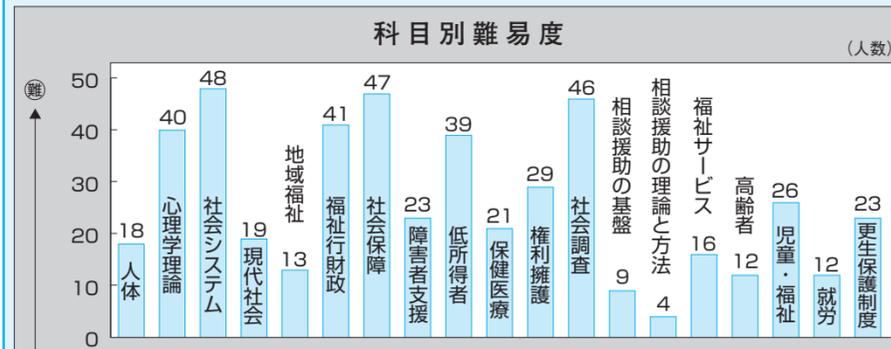
貧困や生活不安、それに障害や疾病に苦しむものに対し、優先して与える。いわばその人が持っている能力や才能、生まれた環境や親の優秀性が大きな影響を及ぼす資本主義の仕組みの逆をいく制度である。福祉制度もそうであるが、これらの力のない、弱い、そして虐げられがちな人々を優先的に対象とする。ではそれはなぜだろうか。それは社会保障があらゆる人間を平等に扱い、その尊厳を守り、自由で自律であることを助長するための仕組みだからである。

社会保障の思想には日本国憲法さえも凌駕するほどの深い思想とパワーがある。その背景には隔離・差別されて優生学や民族浄化の名のもとに淘汰され、虐殺された無数の人々と、このような悲劇を決して起こさないと思った20世紀後半以降の社会の固い決意がある。自由と平等に裏打ちされたゆるぎないパワーこそ、社会保障を押し進め、人々の共感を得ている根源である。福祉の現場で働き、学ぶ皆さんこそこの事実には敏感であり、社会保障の給付こそ人間の自由と権利の行使を具体化する姿と実感できる筈である。社会保障を単なる制度とは見ずに、深く理解してその維持と拡充が立場の弱い人々を正しく処遇する道なのだ、という確信を強く持っていたいただきたいと思います。



（ケンブリッジ大学にて）

第28回国家試験に関するアンケート



平成27年11月に修了した第26期生204名を調査対象とし、124名（①受験をした115名、②申込をしたが当日受験しなかった4名、③申込をしなかった5名）からの回答が得られました。図は受験者の回答をもとに難易度数（難しいと答えた人数）を示しています。

※厚生労働省への報告のため、現在もアンケートは回収していますので、未提出の方は早急に提出してください。

●学習の工夫点・反省点・アドバイス等（合格者の声）

- ・テキストはあちこち手を出さず、同じワークブックを繰り返し読み込んだ。理解できない点は、福祉六法やインターネット、教科書等で調べることで記憶が定着した。
- ・試験問題に慣れること。読解に時間がかかる。
- ・深い学習が必要だと感じた。科目ごとにしっかり理解していないと解答に結びつかない。
- ・栄養ドリンクを前日と当日に飲み、落ち着いて焦らず臨んだ。150問なので、あきらめや疲労を感じてしまうと点数はついてこない。
- ・過去問や問題集に取り組むと同時に普段からニュースや新聞に目を通しておくことも大切。問題文を素早く正確に読み、解答できるよう訓練すること。
- ・制度やサービスについては、厚生労働省や地方自治体のHPにわかりやすい説明資料が出ていることが多いのでお勧め。
- ・模試を11月頃を受けて、雰囲気をつかんだ。
- ・範囲が広いが基本的な知識をしっかり身につけることが重要だと感じた。

- ・会場の寒さ対策は必要。会場までのルートを確認しておく。過去問、模試は毎日30分ずつ行い、正誤解説を読みこむようにした。
- ・ワークブックと過去問集を中心に、国家試験ナビでおさらいした。

●残念ながら合格できなかった方からの反省とコメント

- ・過去問の勉強をしておけば合格できたと思う。講義の内容もかなりためになったので、よく聞くことが重要。
- ・すべての科目をちゃんと勉強できなかった。来年の試験に向けてもっと早く受験勉強を始めた。一つひとつしっかりと理解していないと試験問題に解答できないので何度も学習することが良いと思った。
- ・11月の下旬から本格的に学習していたが、もっと早い時期から始めればよかった。当日の時間配分を失敗したので、模試をもっとやっておくべきだった。
- ・模擬試験の申し込みが間に合わなかったため、不安が残ったまま本番を迎えた。過去問を解く時間をもっととればよかった。